

## 県民講座開催報告

12月15日、名古屋市中区の電気文化会館において医療療育総合センター県民講座を開催し、111名の参加がありました。

総合センターとなって第1回目となる今回は、「これからの障害者医療と療育～医療療育総合センターの新たな取り組み～」と題し、安藤久實総長の講話を始めとして、中央病院、発達障害研究所、療育支援センターの機構紹介も併せて行いました。

中央病院からは、門野泉リハビリテーション室長兼小児整形外科医長が「生きる喜びを支えるリハビリテーション」をテーマに講演しました。「リハビリテーション」の語源から始まり、様々な職種が患者さんのために「ONE TEAM」で力を尽くす中央病院リハビリテーション科の取り組みなどについて紹介し、最後は、リハビリテーションの目指すものは“最高のQOL（生活の質）の実現”であり、「“最高のQOL”がその人にとって何なのか常に模索するのがリハビリテーションである」と締めくくりました。

また、発達障害研究所からは林深遺伝子医療研究部長が講演を行い、「わからなかった疾患をわかるようにする、そして治せるようにする」をテーマに、遺伝医学とは何か、遺伝性疾患の原因はどうやって調べられるのか、遺伝性疾患の治療の試みなどについて講演を行いました。現在、自身が取り組んでいる遺伝性疾患の研究について分かりやすく解説し、遺伝性疾患の原因探究はとても大変だけれども、ゲノム手法の急速な発達により、「わからない」疾患だった遺伝性疾患の原因が次々に明らかになっており、そのことにより疾患の原因に応じた治療や療育ができるようになってきたとまとめました。

総合センターを支える病院、研究所、療育支援センターの連携の重要性を感じた3時間半でした。



写真左から、安藤久實総合センター総長、門野泉リハビリテーション室長兼小児整形外科医長、林深遺伝子医療研究部長